

第179回東葛しぜん会観察会

遠藤 鏡子（柏市）

柏の葉公園で木の実、どんぐりを探そう

日 時：2022年11月6日（日）9時30分～12時

場 所：県立柏の葉公園（柏市）

参加者：大人12名、子ども2名、スタッフ12名 計26名

担当指導員：鈴木（と）、遠藤（真）、遠藤（鏡）

今回は抜群的好天に恵まれ、暑くも寒くもなく快適な気候の中での観察会となりました。今回のテーマは木の実。公園内の樹木を中心にどのような樹木にどんな実がなるのか、なぜそのような形なのか、を参加者の皆さんと一緒に考えながら園内の木の実を観察してまわりました。

まず、一番目に付くのがどんぐり。子どもたちにも大人気の木の実は主にブナ科の樹木に実ります。これらは皆殻斗と呼ばれる硬いお椀型の帽子を持っており、その形、模様が実際に様々なことからどんぐりの成る木を見つけて参加者に拾い集めてもらい、その形の違いを見比べて観察しました。

次に面白い種が仕込まれている実を探しました。クマシデ、シナノキ、ユリノキなどの実はプロペラがついた種を持っており、風が吹いたときに木から離れて遠くまで運ばれるしくみを実際に空中から落としてみて観察。参加者の皆さんも面白いと興味深々でした。

最後に柏市を代表する木であるカシワの木前でどんぐり探し。

柏餅で有名な柏の葉はいろんな食材を包んで蒸すときにも使われました。煮たり蒸したりすることを「炊しぐ」ということからそれが語源になったといわれています。

柏にこんな実ができるなんて知らなかった、と驚いている参加者もいて、今回は新たな発見の連続にもなりました。最後にスダジイのどんぐりの実を（洗って）試食。私も参加の方も初めての味に、うんうん、とうなづきながら噛みしめました。自然の恵みは尊い！五感をフルに活用した観察会となりました。



いろんなどんぐりがあります



シナノキの種飛ばし